

雨水出水浸水想定区域図に関する Q&A

Q1：内水氾濫とは、何ですか。

A1：下水道から雨水を河川に流す排水が追い付かず、小さな川（水路）やマンホール、側溝から水が溢れる氾濫です。

Q2：外水氾濫とは、何ですか。

A2：大雨により大きな河川の水量が増え、堤防が決壊したり、堤防を越えて水が溢れ出したりすることにより発生する氾濫です。

Q3：雨水出水浸水想定区域図とは、何ですか。

A3：内水氾濫による浸水が想定される区域と浸水深を地図に表示したものです。

Q4：対象とした降雨は、何ですか。

A4：対象とした降雨は、想定最大規模降雨（時間最大 147mm）です。国の基準（「浸水想定（洪水、内水）の作成等のための想定最大外力の設定手法（平成 27 年 7 月）」）により定めています。例えば、近畿の降雨継続時間が 1 時間、面積 100ha（1 km²）では、一律で 147 mm に定められています。

Q5：想定最大規模降雨とは、何ですか。

A5：国の基準（「浸水想定（洪水、内水）の作成等のための想定最大外力の設定手法（平成 27 年 7 月）」）により定めています。国内を降雨特性が似ている 15 の地域に分け、その地域内で過去観測された最大となる降雨量を用いて設定。吹田市は近畿地域に分類され、平成 18 年 8 月 22 日に大阪府豊中市で降った降雨（豊中豪雨）を時間最大 147mm に引き伸ばして使用しています。

Q6：内水ハザードマップとは、何ですか。

A6：下水道の排水能力を超える大雨等によって、内水氾濫が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深、避難等に役立つ情報をまとめたマップで、水害に対する日頃の備えや避難の際に役立てていただくなど、自助・共助の促進を目的としています。

Q7：雨水出水浸水想定区域図で浸水の着色がない部分は、安全な場所ですか。

A7：想定される浸水区域や浸水深は、雨の降り方や土地の形状及び河川・下水道の整備状況などにより変化するため、大雨の際に必ずこの地図に示すとおりに浸水するということではありません。浸水が想定されていない地域でも状況によっては浸水することもあるため、十分に注意してください。

Q8：雨水出水浸水想定区域図の基図に使用する地盤高（標高）は、いつ時点のデータですか。

A8：浸水深を算出するために用いている地盤の高さは、国土地理院から公開されている「基盤地図情報 数値標高モデル 5m メッシュ」R6 年時点で公表されている最新データを使用しています。このため、地盤高測量以降に区画整理事業や開発等で造成されている地域は、地盤高データと背景の地形図が整合していない場合があります。

Q9：下水道の整備状況は、いつ時点までの状況を反映していますか。

A9：令和6年3月末までに整備を実施した管渠等の下水道施設を反映しています。

Q10：雨水出水浸水想定区域図には、外水氾濫（河川からの氾濫）を含みますか。

A10：河川の外水氾濫（洪水）は考慮していません。河川の外水氾濫（洪水）による浸水想定区域を確認されたい方は、洪水ハザードマップをご確認ください。

Q11：平成31年3月に公開している内水ハザードマップ（以下、前内水ハザードマップ）と何が変更になりましたか。

Q12：前内水ハザードマップに着色がなく、今回新たに着色された理由は、何ですか。

A11、A12：前内水ハザードマップでは、外水位の設定を河川のHWL一定と

していましたが、「内水浸水想定区域図作成マニュアル（案）（国土交通省）」R3年度の改正により、想定した降雨に応じた水位変動を与える「一体解析」を実施しています。また、令和6年3月末までに整備された管渠を追加し、建物（鉄筋コンクリート等の堅牢建物を非透水設定とした）を考慮したことで、より実態に近い解析を実施しています。

Q13：坂道等で地形上水が溜まらない場所に着色されているのはなぜですか。

A13：雨水出水浸水想定区域図は、0.05m以上の浸水を着色して表現しており、各メッシュで浸水深が最大となる値で凡例のとおり着色を行っています。このため、坂道等で地形上水が溜まらない箇所についても、溢れた水が地表面を伝って流れる際にその深さが0.05m以上になっている場合は着色されることとなります。

Q14：道路面より高い宅地が着色されているのはなぜですか。

A14：基盤地図情報は5mメッシュとなっているため、近傍の5mメッシュ地盤高を用いた平均値の地盤高が生成・定義されています。浸水シミュレーションモデルの解析用メッシュは概ね5m以下の三角メッシュを用いており、三角メッシュごとに浸水深が算定されます。ただし、基盤地図情報の5m矩形メッシュ内に複数の三角メッシュが存在することとなり、その中で最大となる浸水深を当該矩形メッシュでの浸水深として着色しています。そのため、道路面より高い箇所でも着色される場合があります。

Q15：時間最大147mmは吹田市で過去に降ったことはあるのですか。

A15：時間最大147mmは吹田市で過去に降ったことはありません。近隣市で発生した最大降雨は、時間最大110mm（平成18年8月豪雨：豊中豪雨）があげられます。なお、想定最大規模降雨はこの豊中豪雨を引き伸ばしたものになります。

Q16：アンダーパスの地盤高の設定はどのようにしていますか。

A16：雨水出水浸水想定区域図は、国土地理院の基盤地図情報による地盤高情報を用いて作成しています。基盤地図情報は5mメッシュとなっているため、近傍の5mメッシュ地盤高を用いた平均値の地盤高が生成・定義され、実際よりも浸水深が浅くなっている場合があります。そのため、浸水の着色がないアンダーパスについても、その両側に浸水の着色がある場合は、浸水の可能性が高いため、ご注意ください。

Q17：浸水エリア及び浸水深は、降雨継続時間のどの時点を表していますか。

A17：凡例のとおり 0.05m 以上の浸水を着色して表現しており、各メッシュで浸水深が最大となる値で着色を行っています。